# 2 いきものたちを調べる

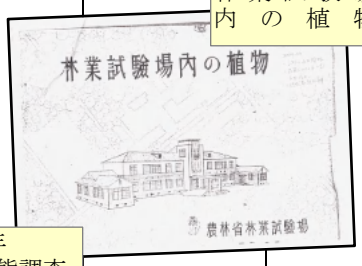
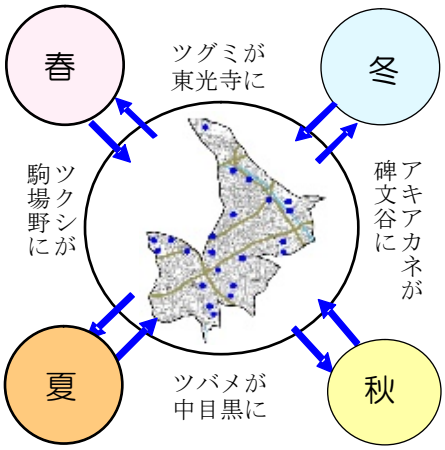
| 年　代 | いきものの記　録 | 区民の調査 | 専門調査 | 本や参考資料 | | 関連事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1970 年代以前 | <br>1734 年 6 月ホトトギス鳴く(一番古い観察記録)<br> <br>1960 年代アオバズク繁殖記録最後 | 1977 年～ウグイスの初音調査 | 1977 年緑の実態調査 | 1949 年林業試験場内の植物<br>  <br> | | 都市化による農地の減少<br>1976 年～保存樹木等の指定 |
| 1980 年代 | 1981 年～カワセミ出現以後、観察記録が増加<br> | 1984 年～シジュウカラ巣箱モニター<br>1986 年～駒場野公園自然クラブ | 1985 年緑の実態調査<br>1985 年野鳥生息調査 | <br> | 1983 年街の自然 12 か月発行<br>1984 年清掃工場アセスメント調査報告書 | 1986 年野鳥のすめるまちづくり計画<br>1989 年五感の緑を作る緑の基本計画 |
| 1990 年代 | <br> <br>1995 年～タヌキ出現 | 1997 年～いきもの発見隊・ビオトープ・自然通信員の調査 | 1993 年緑の実態調査<br>1998 年野鳥・小動物の調査 | | 小中学校の理科クラブ・区民活動によるいきもの調査報告書 | 1991 年～みどりの条例<br>1995 年目黒川清流復活事業<br>1997～99 年 20 世紀のいきものたち記録委員会 |
| 2000 年代 | 2004 年 7 月初のナガサキアゲハ観察記録、以後、温暖化指標種の観察記録が増加<br> <br>ヒキガエル・ツバメ減少 | 2001 年～公園登録団体が活動<br>菅刈公園<br>中目黒公園<br>碑文谷公園<br>駒場野公園<br> | 2004 年緑の実態調査 | | <br>2009 年いきもの住民台帳の公開 | 樹木の減少<br>2002 年～屋上緑化助成<br>2007 年～樹木等保全協議<br>2009 年～いきもの気象台データ集積 |
| 2010 年代 | <br>2010 年～小学校ビオトープエコアップ | 2011 年企業の CSR 活動生物調査<br> | | | いきもの住民台帳の更新開始 | 2010 年いきもの住民会議 |

図 17 いきものの観察記録や調査などの歴史

［区民参加による調査］

ウグイスの初音調査やシジュウカラの巣箱モニター、いきもの発見隊など、目黒区では区民の参加による身近な自然の調査を進めています。いきもの気象台では、寄せられた記録をまとめ、調査結果の活用を行っています

・自然通信員、いきもの気象台観測員



・公園活動（駒場野自然クラブ）

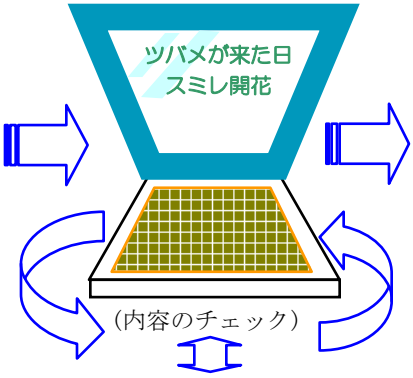
左：ビオトープで
いきもの観察

右：目黒川で
いきもの発見隊

○専門調査や資料の調査

・野鳥生息調査（1986）　緑の実態調査（2004）　あの日この顔（1982）

○いきもの気象台　パソコンに集計



・いきもの住民会議の開催

・いきもの住民台帳の更新

図 18　観察記録の流れ（1986：野鳥のすめるまちづくり計画を基に作成）

［調査結果の活用例］

- 集計結果をホームページで公開
- いきもの気象台冊子（年のまとめ）の作成
- レッドリストの作成
- 自然回復活動の指標種の設定
- 学習・街づくりの資料として利用

図 19　調査結果をもとに作られている計画

［さまざまな調査］

**○樹木調査**―植物園のように多数の種類の木があります　(2003:緑の実態調査より)

・樹木の本数:26,947 本　　樹木の種類数： 223 種類

（内訳）　街路樹　　2,923 本　調査対象:高木の全数

　　その他　　24,024 本　調査対象:地上 1.5m で幹の直径が 20 cm以上の木

・本数の多い種類

〈街路樹〉　　〈その他〉　　(図 20)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 位 | イチョウ | 1,543 本 | 1 位 | スダジイ | 4,745 本 |
| 2 位 | サクラ | 984 本 | 2 位 | サクラ | 3,478 本 |
| 3 位 | モミジバフウ | 719 本 | 3 位 | ケヤキ | 1,974 本 |
| 4 位 | ハナミズキ | 441 本 | 4 位 | イチョウ | 1,598 本 |
| 5 位 | トウカエデ | 409 本 | 5 位 | ヒマラヤスギ | 1,220 本 |

・樹木本数の多い敷地: 東京大学駒場地区Ｉキャンパス(1,140 本)、駒場公園(692 本)、都立林試の森公園(484 本)など(図 21)

・樹木の半分以上は、民有地などにあります(図 22)

・屋上緑化が、1992 年の緑の実態調査時とくらべて増えています(図 23)

区の木しい(スダジイ)の花

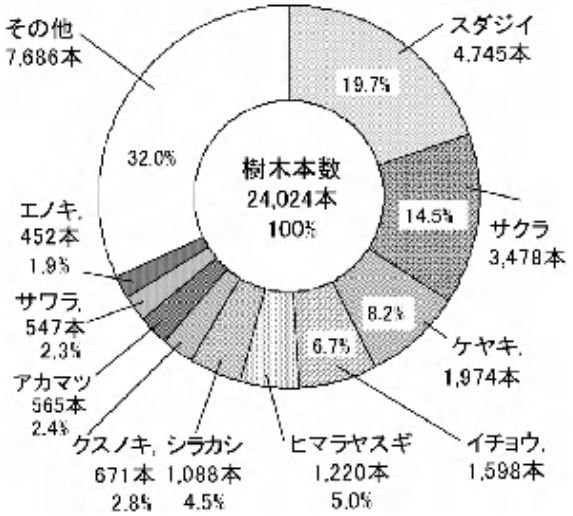



図 20 樹木の種類別の本数(街路樹を除く)

| | 名　称(町名) | 本数 | 種類数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 東京大学駒場地区Ｉキャンパス(駒場) | 1,140 | 61 |
| 2 | 駒場公園(駒場) | 692 | 73 |
| 3 | 都立林試の森公園(下目黒) | 484 | 85 |
| 4 | 東京工業大学(大岡山･緑が丘) | 437 | 39 |
| 5 | 東京大学駒場キャンパス(駒場) | 329 | 43 |
| 6 | 防衛庁技術研究本部(中目黒) | 329 | 32 |
| 7 | 碑文谷公園(碑文谷) | 315 | 34 |
| 8 | 目黒不動尊(下目黒) | 311 | 34 |
| 9 | 都立駒沢オリンピック公園(東が丘) | 283 | 21 |
| 10 | 国立病院東京医療センター(東が丘) | 248 | 30 |
| 11 | 公務員駒沢住宅(東山) | 246 | 22 |
| 12 | 円融寺(碑文谷) | 200 | 30 |
| 13 | 駒場野公園(駒場) | 193 | 42 |
| 14 | 碑文谷八幡宮(碑文谷) | 193 | 20 |
| 15 | 祐天寺(中目黒) | 193 | 26 |
| 16 | 中根公園(中根) | 172 | 23 |
| 17 | 目黒雅叙園(下目黒) | 155 | 14 |
| 18 | 八雲氷川神社(八雲) | 143 | 18 |
| 19 | すずめのお宿緑地公園(碑文谷) | 141 | 26 |
| 20 | 衾町公園(八雲) | 140 | 30 |

図 21 場所別の樹木の本数と種類数(本数の多い順)

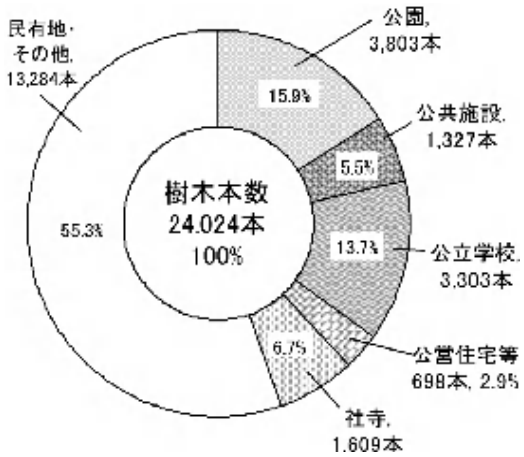



図 22 樹木の多いところ(街路樹を除く)

図 23　屋上緑化の例　区の花 はぎ

目黒区総合庁舎屋上　目黒十五庭

## ○植生調査―いろいろな特徴を持った林や草地

（1984：目黒区産動植物目録掲載「目黒区の植生概観」（曽根伸典氏寄稿）をもとに作成）

植物は、どこにでも育つと思っていませんか。でも、よく見ると、気温・地形・湿り気などの条件や、植物同士の競争、ほかの生物との関係の中で、植物の種類ごとに、それぞれ生育できる環境が決まっていることに気づきます。そのほとんどは、数～数十種の植物がひとつの場所に大きくまとまって生育し、林や草地などを形成しています。これを植物群落といいます。

専門的に地表の植物のようすを分けたものを植生区分といいます。

目黒区は、照葉樹林帯（葉が硬く、葉の表面につやがある樹木を主とした森林が分布する地域）で、主に常緑広葉樹（1年中葉をつけている広葉樹）の生育する気候です

・常緑広葉樹林

・駒場公園、大円寺、東工大の斜面林などに、シラカシを主とするシラカシ群落が見られます。この群落には、エノキ・ムクノキ・高さ20mを越す大木のケヤキなどの落葉樹や、タブノキ・ヤツデ・トベラなどの海岸にもみられる常緑広葉樹、カジイチゴ・ドクタミなどの草を含みます。目黒区の自然の特性を示す、貴重な林です

・碑文谷八幡宮や清水池公園の一部などでは、スダジイを主としたスダジイ群落も見られます

・夏緑広葉樹林

主に落葉植物（冬の間、葉を落とす植物）で構成される林で、目黒区には、以下ような林が見られます

・アカマツ林。林業試験場跡地（現林試の森公園）のようにキカラスウリを主とする草がみられる林と、東京教育大跡地（現 駒場野公園）のようにスイカズラを主とする草がみられる林のふたつに分けられます。区内のアカマツ林は、どれも植栽されたものと思われます

・クヌギやコナラを多く含む、いわゆる雑木林。東京教育大跡地（現駒場野公園）で見られます。区内の雑木林は長い間、人が手入れせず放置されていたため、低木やつる植物などが多くなり、林内は荒れていました

・川沿いの斜面などのやや不安定な場所に生育している、主にムクノキやエノキが見られる林

キカラスウリの花（1982：林業試験場跡地）

木いちごのなかまのカジイチゴ（1982：中根公園）

図 24 ヤブツバキ（林試の森公園）

図 25 雑木林の活動（駒場野公園野草園）

左;ミクリ(1982:東大一二朗池)
右:ケキツネノボタン(2005:駒場野公園)

図 26 シラカシの樹林(駒場公園)

図 27 水田と周辺の植生(駒場野公園)

・植栽林　目黒区には、「クスノキ植林」と「モウソウチク林」があります。林内には、シュロ・アオキ・ジャノヒゲ・シロダモなどの常緑の植物が多く見られます。

・駒場公園で記録された「クスノキ植林」は、自然植生に類似してきているものでした。林業試験場跡地（現 林試の森公園）や東大では、林内にアズマネザサが見られ、近年まで下草刈りや人の踏み込みなどがあったようすでした。

・「モウソウチク林」は、すずめのお宿緑地公園にあります。数本の竹を植栽し、その後、自然にふえて、林になったと考えられます

・路傍雑草群落　道ばたやあき地などに生育する多年草を主とする群落です。目黒区では、イヌムギ、クサイチゴ、エノコログサなどの記録があります

・低層湿原　水の深さが一定している水辺の湿地に生育する多年草などの群落で、オギ、アブラガヤ、ミクリ、カンガレイ、セリ、クサヨシなどを主とします

・オギを主とするもの以外は、すべて東大と東京教育大跡地（現 駒場野公園）の池での記録です。区内の他の池や沼などでは、このような植物の生育できる場所は、残っていませんでした

・流水辺一年生植物群落　流れのある水辺に主に見られる一年草の群落。目黒区では、東京教育大跡地（現 駒場野公園）の水田で、ノミノフスマ、ケキツネノボタンなどを主とする群落が見られました。これは、田植え前の春の田んぼに特有なものです

・耕作水田雑草群落　夏の水田に生育するイネを主とする雑草群落。区内に唯一残る東京教育大跡地（現 駒場野公園）の水田から、ウリカワやコナギを主とするものが見られました

・人工草地　種まきや芝はりなどによって人工的につくられた草地で、公園内の芝生地などがあります。利用者の踏み込みがあり、踏みあとには、オオバコ、シロツメクサ、スズメノカタビラなどが見られました

・植生を守る　自然が減ってしまった目黒区でも、自然の植生に近いシラカシを主とする林を始め、雑木林や湿原の植生なども残っていることが明らかになりました。隣接する大田区の調査では、

① 断片的となっている天然の林
② 区民から忘れられている草
③ 林内に高木以外の植物がほとんど見られない公園の既存林
④ 湿生植物の生育できる余地すら失った水辺

東工大に残るホタルブクロ(2010)

などの課題があり、目黒区もほぼ同じです。また、植物群落が常緑樹林と夏緑樹林に分かれ、ヨシやススキなどを主とする中間の群落がほとんどないか、あっても非常に少ないこともあげられます。さらに雑木林などは手入れされずに放置されたために荒れ、植生のバランスを失いつつあります。このままでは、植物だけでなく、植物と関係しているほかの生き物の種類がさらに少なくなっていくおそれがあります。詳しい調査記録の積み重ねを基にした指針の確立と、保護に向けた適確な施策の実施が重要です

○　**環境のちがいと見られるいきもの**―土がある場所にはいきもののくらしがあります

| 場　所 | 特　徴 | いきもの |
|---|---|---|
| 街路樹の下　目黒通り 7 ㎡ | イチョウ(高さ８m)の植わっている小面積の緑地で、周囲はアスファルトの舗装。イチョウの根もとにはツツジなどがぎっしりと植えられ、草はほとんどない。しかし、植え込みのない場所には、野草が生えている<br>○植物：13 種類<br>○地表性昆虫：7 種類 | ○植物：イチョウの根もとに、オオムラサキツツジ･クチナシなどの植え込み。地面にはハキダメギク･ツメクサ･コハコペ･スズメノカタビラ･ハルジオン･イヌガラシ･ヒメジョオン･セイヨウタンポポがわずかに生育<br>○野鳥：近くの街路樹でキジバトが巣づくり<br>○昆虫：アリヅカコオロギ･アズマオオズアカアリ・トビイロシワアリ・オオハリアリなど |
| 個人の庭　青葉台　300 ㎡ | 斜面を含む庭。いろいろな種類の木のほか、山野草も植えられている。そのため、小面積だが、植物の量・種類とも多い。踏み固められた地面には、ハンミョウ類が見られる<br>○植物：44 種類<br>○地表性昆虫：3 種類 | ○植物：庭木として、カキ･オオモミジ･ツバキ･アジサイ･クチナシなど。庭の手入れがよいため雑草は少なく、ツユクサ･ドクダミ･ツメクサ･チドメグサ･オニタビラコなど<br>○野鳥：キジバト･ヒヨドリ(巣をつくる)･シジュウカラ･スズメなど<br>○昆虫：コニワハンミョウ･トウキョウヒメハンミョウ･アズマオオズアカアリなど |
| 大きな公園　駒場公園　4ha | 人が植えてつくった樹林だが、人の入り込みが少なく、落ち葉の積もった場所があるなど、自然が保たれている。人工の池と流れがあり、野鳥のよい水浴び場となっているが、水生昆虫はほとんど見られない。人の踏み込む林の中は、野草や昆虫の種類数が少なくなる<br>○植物：76 種類<br>○地表性昆虫：37 種類 | ○植物：シイノキ･クスノキなどの常緑樹林の中は、昼でもうす暗く、シュンラン･サイハイランがわずかに生育。林の縁には、ツボスミレ･ムラサキサギゴケ･ドクダミなどが生育<br>○野鳥：カケス･キビタキ･クロツグミ･マミチャジナイ･ベニヒワなどの記録があり、渡り鳥の休息地としても重要。ワカケホンセイインコが群れている<br>○昆虫：アオスジアゲハ･ゴマダラチョウ･ヨコズナツチカメムシ･センチコガネなど |

**図 28 環境のちがいと見られるいきもの**(1983:**街の自然 12 か月より**)

○**みどりはオナガのさんぽみち**―まちの中では１本１本の樹木が意味をもっています

野鳥のオナガは、大きな樹林をすみかにして、周辺の大小様々な緑地を渡り飛び、えさをとっていることがわかりました(図 29)。オナガにとって、面積や植物のようすなどが異なる緑地 A・B・C のどれもが重要で、A だけや B だけの環境は好まれていないようでした。都市の中で緑地を適切に配置することは困難ですが、C のような小さな緑地でも、それが保全できれば緑地どうしをつなげる役割をして、野鳥がさんぽみち(移動経路)のように「まちのみどり」を利用する可能性のあることがわかりました

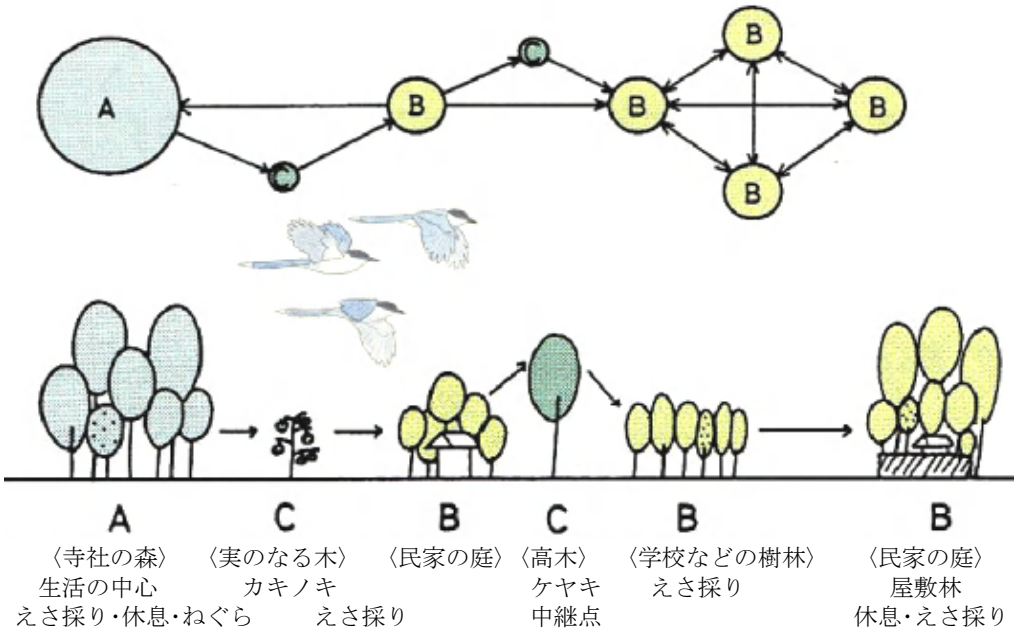



**図 29 オナガのさんぽみち**(1986:**野鳥のすめるまちづくり計画策定時の野鳥生息調査報告より**)

**○身近ないきもの調査**―たくさんの区民が参加

身近な自然のようすやその変化を知るために、区民の参加で、指標種にしているいきものを継続して調べています。参加者は、自然通信員やいきもの気象台観測員として区に登録します。ツバメやタンポポなど、区民に親しまれ観察のしやすいものや温暖化などの環境の変化を把握しやすいものを指標種としています

ウグイスの初音

| 場所(P. 18 参照) | 継続してみんなで調べる指標種の例 |
|---|---|
| 庭地 | カネタタキ、アオスジアゲハ、アカボシゴマダラ、ヒキガエル、トカゲ類、ヤモリ、ウグイス(初音)、スズメ |
| 小さな水辺 | シオカラトンボ類、赤トンボ、ヒキガエルの産卵する池 |
| 屋敷林 | カントウタンポポ、クワガタムシ類、ナガサキアゲハ |
| 草はら | スギナ、ススキ、ハギ、シロチョウ類、オンブバッタ |
| 雑木林 | タチツボスミレ、ヘビ類、シジュウカラ |
| 都市の森 | セミ類、ジョロウグモ、コゲラ、オナガ |
| 広がりのある水辺 | サギ類、ユリカモメ、カモ類、ツバメ |

**○駒場野自然クラブ**

区民を中心に、駒場野公園で継続して観察活動をしています。特に、野鳥、クモ、キノコについては、講師やボランティアの活動によって毎年観察リストを新しくしており、貴重なデータが蓄積されています。2010 年までに公園内で鳥類 81 種類、クモ 110 種類、キノコ類 131 種類を観察しました(図 30)

図 30 駒場野自然クラブの活動

図 31 ビオトープの活動

**○ビオトープ**

区内のいくつかの小学校では、ビオトープ活動を行っています。校内につくったビオトープを観察し、自然の移り変わりやいきものの回復のようすを調査しています。ビオトープ内の池では、クロスジギンヤンマの産卵やゲンゴロウのなかまの飛来などが見られるようになりました(図 31)

**○環境別の専門調査**

コドラート(植生)、ベイトトラップやライトトラップ(昆虫)などの調査方法で、生物を専門的に調べます。昆虫は、できるだけ採集して標本を作り、記録として確実なものとします。作製した標本は、イベントでの展示や学校等での学習に活用しています(図 32･33)

図 32 上:ライトトラップ(夜に来る虫を捕獲)の調査　下:ベイトラップ(虫の食べるえさを入れたわな)の調査

図 33 記録として大切な標本(みどりと公園課)

# 3 いきものたちの変化

いきものを観察できた年の変化(いきものマップ→P. 49～)を見ると、減ってしまった種類や、増えてきた種類のあることがわかります。気候や緑地面積などの変化や、人と自然とのかかわり方が変わるにつれて、いきものの世界も変化していきます。環境が悪くなっていることを、いきものたちの変化が教えてくれることもありますので、今後、区民参加の調査や専門的な調査などを継続し、自然の回復や、これからの私たちのまちのありかたを考える資料として活用していくことが大切です

**[樹木の変化]**

緑の実態調査(2003 年)では、前回調査(1992 年)からの 11 年間で、2,279 本の樹木が減少しました(図 35)

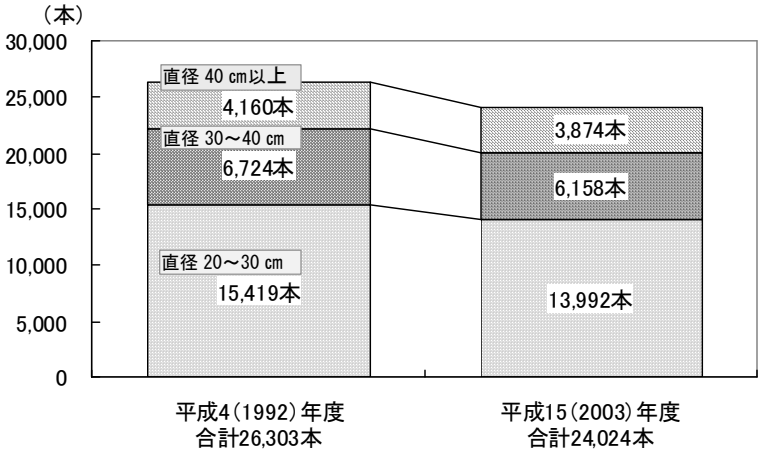



図 35 減っている樹木
太さ別樹木本数の変化(2003:緑の実態調査より)

**[昆虫の変化]**

チョウを例にすると、以前は大きな緑地や庭で観察されていたダイミョウセセリは、1995 年を最後に観察記録がありません。一方、ナガサキアゲハは 2004 年に最初の記録があり、それ以降、毎年観察されています(図 36)

・ダイミョウセセリ(1982:洗足)

・ナガサキアゲハ(2009:下目黒)

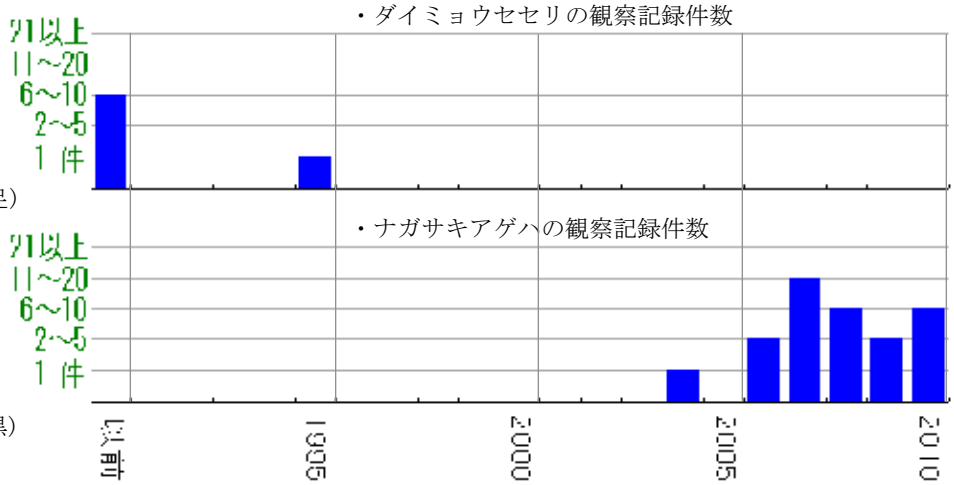



図 36 チョウの年別観察件数の変化(目黒区いきもの住民台帳から作成)

**[野鳥の変化]**

- 1970 年代から、コゲラ、カワセミが区内で見られるようになりました
- 1980 年代からは、アオサギ、ダイサギ、コサギなどのサギ類が住宅や公園の小さな池に見られるようになり、観察記録は年々増えています
- 冬に北国から渡ってくるキンクロハジロ、ホシハジロなどのカモ類は、1990 年代から目黒川等で観察されるようになりました(図 37)
- コジュケイは、1980 年代以降、ほとんど観察されなくなっています
- 個体数の調査では、コゲラ、メジロ、ムクドリ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが増え、カイツブリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、キビタキ、ツグミ、アオジ、オナガなどが減少しています(1999:目黒区自然環境基礎調査より)

図 37 1990 年代から目黒川や碑文谷公園の池などで観察件数が増えたカモ類

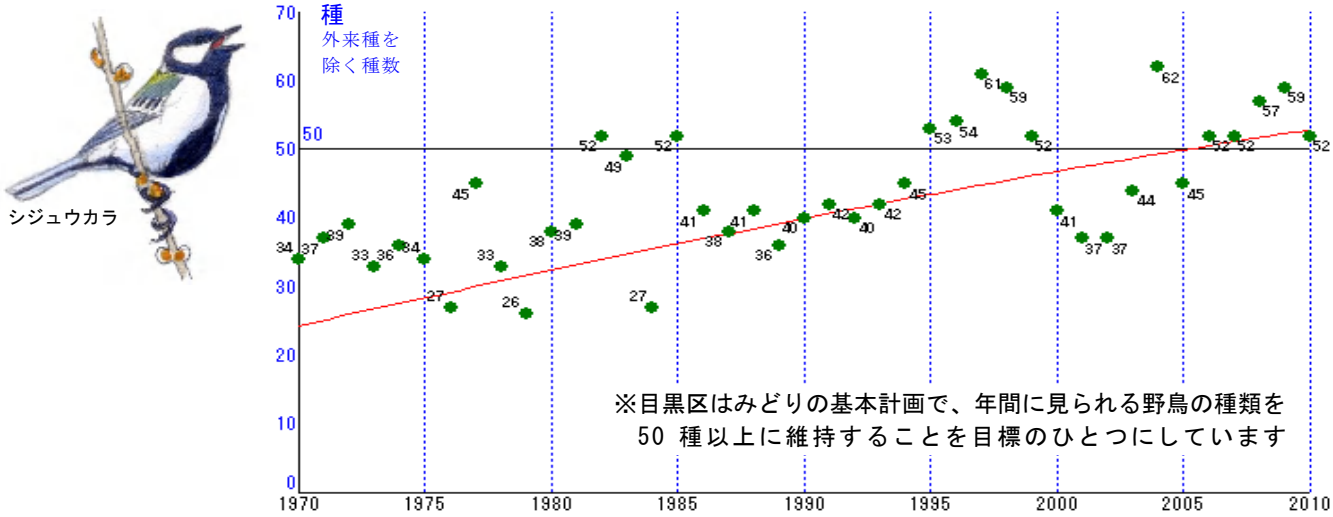



図 37 1 年間に観察される野鳥の種類数の移り変わり

［生物季節の変化］

・都市の気候の変化(P. 5)などがひとつの要因で、ソメイヨシノの開花日が以前と比べて早くなるなど、生物季節の変化が見られるものがあります。目黒区でも今後調査を続けていくことによって、いろいろな変化がわかるかもしれません

・区内のセミの鳴き始めは、以前はアブラゼミ、ミンミンゼミの順でしたが、1990 年ごろから、ミンミンゼミが先になっています(図 38)

［人の影響による変化］

・飼われていたペットが放されたり逃げ出すなど、人の活動が原因で、見られるようになってきたいきものがいます。人が放したといわれる蝶のなかまのアカボシゴマダラ(要注意外来生物)や、アカミミガメ(ミドリガメとも呼ぶ、要注意外来生物)、ナガミヒナゲシやヒメツルソバ(園芸植物の野化)などがあげられます(図 39)

・以前は観察記録がなかったハクビシンは、2003 年から急速に区内での記録が増えています。ペットが逃げ出したものなのかどうかは不明です(図 40)

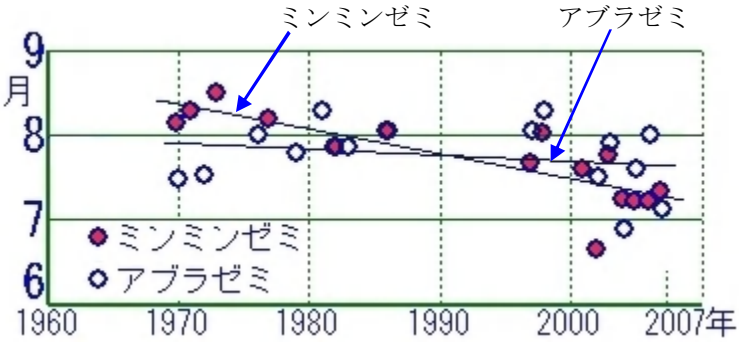



図 38　ミンミンゼミが早く鳴き始めるようになりました

図 40　ハクビシンの観察記録

図 39　写真の中のほとんどは、外来生物のアカミミガメです(碑文谷池)

# 4 緑地の移り変わり

| | |
|---|---|
| [駒場農学校]<br>❶ 駒場公園<br>❷ 駒場野公園<br>❸ 東京大学駒場地区キャンパス | ・駒場あたりは、かつて人の背ほどもある笹が一面に生える広い原野で、「駒場野」と呼ばれていました<br>・明治になると、この地に駒場農学校が開校し、近代農業の総合的教育･研究の場となりました。1881 年、ドイツ人の教師オスカル・ケルネルが着任し、土壌や肥料の研究で大きな成果をあげました。駒場農学校は、東京農林学校などを経て東京教育大学農学部となり、敷地の一部は、旧制第一高等学校(現在の東京大学駒場地区キャンパス)や旧加賀藩主の前田侯爵邸などになりました。その後、筑波大学となった東京教育大学は筑波研究学園都市へ移転し、同大農学部は 1978 年に閉校しました<br>・同大農学部の移転跡地にできたのが、駒場野公園です。園内には雑木林、水田、池などの多様な自然が残っています。水田は「ケルネル田んぼ」と呼ばれ、今でも筑波大学付属駒場中･高校生が、水田稲作実習で使っています。同公園は 2008 年に拡張されました。園内には、自然観察の拠点である自然観察舎があります<br>・前田侯爵邸は、現在駒場公園となり、旧前田侯爵家駒場本邸（洋館および和館）として、東京都有形文化財に指定されています。園内は、区内では貴重な森です<br>・東京大学駒場地区キャンパス内には樹林や草地のほか、湧水池(一二朗池)が残され、武蔵野の野草なども自生しています |
| [西郷従道邸]<br>❺ 菅刈公園<br>❻ 西郷山公園 | ・青葉台付近には、明治 10 年代以降、西郷隆盛の弟の従道邸がつくられました。三田用水から水を引いた滝や池のある庭園は、東都一の名園と言われたそうです<br>・1941 年に西郷家が移転し、跡地の一部は、現在、西郷山と菅刈の二公園になっています<br>・1981 年に斜面上部を中心として作られた西郷山公園は、斜面上部の高台からの眺望がよいことや、いろいろな品種のサクラがあることで人気があります<br>・2001 年に誕生した菅刈公園では、目黒川の崖線(がいせん)に残るうっそうとした樹林がむかしの面影を今に伝えています。池のある庭園は、一部が復原されています |
| [駒沢練兵場]<br>❼ 東山公園 | ・駒場野の一端の東山あたりは、幕末には幕府の軍事演習場、明治期には軍の駒沢練兵場として利用されました。その後も、国土地理院や病院などの国の施設がありました<br>・1983 年に国土地理院が筑波研究学園都市に移転し、跡地は東山公園になりました。その後、公園は二度にわたって拡張されました |
| [金属材料研究所]<br>⓫ 中目黒公園 | ・1956 年、金属材料技術研究所が中目黒にできました。<br>・1995 年、研究所が筑波研究学園都市に移転し、その跡地の一部に作られたのが中目黒公園です。2002 年に開園したこの公園には、エコ園芸や身近な自然への理解を深める活動拠点となる花とみどりの学習館があります |
| [林業試験場]<br>⓲ 林試の森公園 | ・1900 年に山林局目黒試験苗圃として生まれ、山林局林業試験所等を経て、1978 年に筑波研究学園都市に移転するまで、目黒の林業試験場として親しまれてきました。跡地は、目黒・品川両区にまたがり、1989 年、都立林試の森公園となりました<br>・多様な種類の樹木がある林が今も残り、渡り鳥の重要な中継地です |
| [碑文谷池]<br>㉖ 碑文谷公園 | ・かつての碑文谷村が持っていた、水田等に用いる農業用のため池でした<br>・1932 年、自然を守り伝えるために公園用地として当時の東京市に寄付され、碑文谷公園が誕生しました<br>・2001 年に拡張し、区立公園としては最大の公園になりました。ボート遊びやポニー乗馬ができるほか、野球場・テニスコート・体育館などがある目黒区の中心的な公園です |
| [都立大学]<br>㉟ めぐろ区民キャンパス | ・1932 年に移転してきた府立高校からできた都立大学は、1991 年、付属高校を残して、八王子に移転しました。跡地は、2002 年、ホール、図書館、体育館、トンボなどが飛来するビオトープ池のある公園などを持つ目黒区民キャンパスとなりました |
| [駒沢ゴルフ場]<br>㉜駒沢オリンピック公園 | ・元はゴルフ場でしたが、1953 年、プロ野球の本拠地として駒沢野球場が開設しました<br>・1964 年の東京オリンピック開催に伴い、都立駒沢オリンピック公園が誕生しました。オリンピックでは、サッカーやバレーボールの会場となりました<br>・目黒・世田谷両区にまたがり、開園当時植えられたケヤキが見事な大木に育っています |
| [東京工業大学]<br>㉘ | ・1923 年の関東大震災をきっかけとして蔵前(台東区)から大岡山に移転してきた東京高等工業学校が、その後、東京工業大学となりました。目黒・大田両区にまたがり、カモの飛来するひょうたん池や野鳥が羽を休める森などの貴重な自然が残っています |